

カルカッタ

すると後ろから何者かが関西弁で話しかけてくる。

それがあまりにも完璧な日本語だったために、パラゴンにいる日本人かと思って振り向くと、そこには土産物リヤカーを運営する斜視のインド人が立っていた。

彼は自分の名前をサトシと名乗った。さらりと偽名を出す時点で怪しいことこの上ない。

この時はまだ私も知らなかったが、実のところ彼はその達者な日本語を駆使して、ここサダルストリートに滞在する日本人旅行者たちに様々な情報を提供するアドバイザーのような存在だった。これが食べたい、あれが欲しいといった旅行者に情報を与え、気が向いたらリヤカーの土産物を買ってくれ

と——そのようなビジネスを展開しているのである。お陰で彼はこの界限でもちょっとした有名人だった。

「マザーテレサの家」でのボランティア

日向で横たわっていたひとりの老人に、全身を真っ黒に覆い尽くすほどのハエがたかっているのだ。本人はそれを払う力もない。

ふと昔、川原で見た猫か犬かの死骸を思い出した。後に岡村さんに聞いた話だが、ハエは動物の死期を敏感に感じ取るという。

そして私は同じく岡村さんに、次の日にはもうあの老人が施設からいなくなっていたことを聞いた。

愛機 XL250R パリダカ

21リットルというビッグタンクを標準装備

全てのプラスねじを六角ねじにかえた。ネジなめが起きないよう。

22歳

インド映画「クチュクチュホヘタ」

野糞当たり前のこのインドにおいてこういった光景は見慣れていたが、ここまで数が多いと泳ぐどころか佇む気にもなれない。私は地雷を踏まないように注意しながら、ずっとその砂浜を離れた。

確かに美しいプリーの浜辺。だがそこは住民たちの広大な水洗便所と化していた。

談笑しながら空き地で足を止めた彼女たちは、何とそこで脱糞を始めたのである。連れションならぬ連れウンコだ。なるほど、彼女たちの持つ瓶には水が入っていて、用を足したあとそれで尻を洗うらしい。

ある程度 高級 な 場所 に 行か なけれ ば、便所 には 何処 も 紙 の かわり に 蛇口 と カップ が 備えて ある だけ だ。用足 し 後、カップ に 注い だ 水 と 左手 を 使っ て 尻 を 洗う という のが やり 方 らしい。左手 が 不浄 の 手 と 呼ば れる 所以 である。

腹痛 である。

それ も かなり の 奴 で、15 分 おき に 便所 に 駆け込 ま なく ては なら ない 状態 が 続く。

身体 は 衰弱 し、外 に 出 る こ と も まま なら ない。私 は 日本 から 持参 し て きた 下痢 止め に 賭ける し か なか った。

考 えて みれ ば その 原因 は 明ら か だ った。

実 は 私 は カルカッタ に いた 時 から、インド 人 が 飲む 井戸 水 を 飲ん で いた の である。安い 定食 屋 など で 出さ れ たり する あれ である。

「キャン アイ シット ヒア？」

~~~~~

皆 さん 知っ て の 通り、「shit」は 下品 で インフォー マル な 言葉 です。英語 圏 で も 「taboo word」の 1 つ です。名詞 「shit」の コア な 意味 は 「うんこ」です。

「うんこ を する」は 「take s shit」に なり ます。(イギリス 英語 で は 「have a shit」)

~~~~~

インド 出 国 (アターリー)

本来 カルネ と は 1 国 に つき 1 枚 使 用 す る。

用紙 自 体 は ミシン 目 で 3 分 割 さ れ て いて、一 番 上 が 所有 者 である 私 用、真ん 中 が 出 国 税関 の 保 管 用、そし て 一 番 下 が 入 国 税関 の 保 管 用 と な っ て いる。

入 国 の 際、ま ず 一 番 下 の 用紙 に 必 要 事 項 を 記 入 さ れ た 上 で 切り 取 ら れ、その 税関 で 1 年 間 保 管 さ れ る。

それ と 同 時 に 一 番 上 の 私 用 の 部 分 に も 日付 と 判子 を も ら う の である。

...

今 回 事 務 員 が 文 句 を 言 っ て きた の は、カルカッタ の 税関 に お ける 入 国 用——一 番 下 は 確 かに 切り 取 ら れ て いる が、一 番 上 の 私 用 の 部 分 に 日付 や 判子 が ない という の である。

...

ど の みち も う インド の 金 は 持 っ て いない。事 務 員 は し ば ら く ぐ ず っ て いた が、最 終 的 に は 判子 を 押 した。私 は 勝 っ た の である。

私 の 方 は と 言 う と、同 じ く 国 際 問 題 を 考 えて いて、自 分 が 無 保 険 で 走 っ て いた こ と に 今 さ ら 気 づ いた の である。

クロサワ コウタロウ. 珍夜特急 1—インド・パキスタン— (Kindle の位置 No.568-572). Kurosawa Lettering. Kindle 版.